

平成二十六年 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その一)

受験番号

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は、記号で答えなさい。

※特にことわりのないかぎり、句読点やかぎっこはすべて字数にふくみます。

※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本の経済成長は工業、とくに加工組立産業が中心となって引っぱってきました。日本には石油や鉄鉱石のような資源がありません。原料を輸入して国内で加工し、自動車、電気製品などの工業製品にして外国に輸出することで利益を上げ、成長して追いつき追い越してきました。日本の資源は人、とくに製造業の人材だったということになるでしょう。

X、二世紀の中心は何でしょうか。IT産業でしょうか。金融産業でしょうか。やはり日本は「もの」作りの土台をしっかりとしなければだめだという意見が強くなっています。

確かにものづくりは大切ですが、問題はどんなものをつくるかです。普通のものをつくったのでは、一人あたりのGDPが日本より低い国、Y人件費の安い国に勝つことができません。高度な技術を活かして、新しい製品、他国にないものをつくってゆかなければなりません。これまでのように先行した技術をモデルにして改良を加えていくというやり方は通用しません。ものづくりに求められている人材は、新しいことに関心を持ち、まだやられていないことに挑戦してゆく勇氣をもった人です。とくに若いみなさんは、柔軟な頭脳をもっていますから期待されるところ大なのです。A

Z 3 現実とはだいふかけ離れています。いわゆる理工ばなれ、優秀な若者が、ものづくりから離れていっているのです。

日本が高度経済成長を迎えるころ、理工系学部の人気は高く、どの大学も応募者は定員を大幅に上回っていました。ところが最近では理工系を目指す学生が減ってきて大学関係者にとって深刻な問題となっています。B

しかしこれには若者からみると、やむをえない事情もありそうです。

(1) は文系と比べると、大学の受験科目が (2)、大学に入ると実験で時間を拘束される、だからといって、(3) に就職するときの初任給が (4) わけてはない、そのうえ出世はというと大きな (5) の社長や経営幹部になる割合は文系よりずっと (6) などいいことは何もないという現実がみえているからです。

モノづくりの大切さを訴えてもそれだけでは限界があります。新しい技術を発明してゆくことの楽しさ面白さを強調しても、やはりそれだけでは限界があります。C

車、テレビ、洗濯機、ファクシミリ、デジカメ……これらはいずれも日本の代表的工業製品であり、日本の世界企業が大量に生産してGDPを増やしています。しかし、これらの製品はいくつもの気づき、ひらめき、アイディア、工夫、改良が積み重なってできたものです。これまでなかったものを形にしてきたのです。それはだれがやったのでしょうか。会社という組織でしょうか。そうではありません。〇〇さんと特定できる個人の頭のなかにひらめいた、気づき、思いつきがスタートです。個人と個人の相互作用として組織があるのです。

青色ダイオードは、照明の分野に革命を起こした、画期的な技術です。エジソンの白熱電球（フィラメント電球）の発明に匹敵する発明、地球温暖化を防ぐ歴史的な技術といいでしょう。D

ところがこの技術の発明者、中村修二さん（カリフォルニア大学教授）は会社から二万円の発明報奨金をもらっただけでした。これは悲劇です。「もの」（形のあるもの）しかみていない日本、「もの」の背後にある知恵（形のないもの）をみてこなかった日本の社会の悲劇です。

7 世論は、会社に対して訴訟を起こした中村さんに批判的でした。発明は一人でするものではない。組織の力が大きい。会社は失敗のリスクを負っているが彼にはリスクがない。リターンはリスクを負ったものが得るべきでリスクを負わないサラリーマンにリターンを求める資格はない……などの批判です。この批判には重要な視点が抜け落ちています。それは、はじめにやろうと決意した人——他の人に置き換えることのできない個人——がいてはじめてその組織が機能した、という点です。

I イチローや松井秀喜はおそらく二〇〇億円以上稼いででしょう。そのことをだれも問題にしません。プロ野球は私たちに「楽しみ」を与えてくれるサービス産業です。チームは組織です。組織と組織の戦いのなかで、私たちは個人の並はずれた技をみて楽し

平成二十六年 度 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その二)

み、それに対価を払います。そして組織は、チームのなかの個人を評価する仕組みをもっています。
青色ダイオードの悲劇は、組織に貢献した個人の評価システムができていないこと、とくに発明、著作など無形の知的生産物を評価する仕組みづくりが遅れているところにその原因があります。

たとえばイチロー選手ですが、打者として生きようと決意した彼は、あるバッティング方法を思いつき、試行錯誤をくり返しながら、彼独自のフォームを完成させたにちがいありません。ハードなトレーニングと厳しい自己管理で技を磨いてこんにちがあるわけです。

Ⅱ 技術者も同じです。ある分野、あるテーマに狙いを定め、実験を行ない計算をし、思考をめぐらすなかで、あるときあるひとつの着想が生まれます。そしていくつもの試行錯誤をくり返しながら、ついに実用化に成功するわけです。その間には、もしかしたらだれか他の人に他の組織に先を越されてしまうかもしれないという不安も頭をかすめたでしょう。本人にしかわからない厳しい毎日があったと思われます。

青色ダイオードによって組織は最初の八年間で五〇〇億円の利益を上げています。事業が完全に軌道にのったこんにちではさらに大きな利益を安定的に上げています。プロ野球でいえば、毎年優勝を狙える力をつけたといえます。生産、販売、管理など組織全体で勝利を積み重ねてきているのは確かですが、その中核に「イチロー」がいるからです。問題はその査定です。

会社の評価は二万円でした。これに対して裁判所はその一〇〇万倍、二二〇億円と評価し、支払いを命じました。そして実際は、上級裁判所での争いのロスを避けたいと考えたであろう原告側の妥協によって、六億円で和解しています。

西村肇東大名誉教授は、「共同でやった仕事において個人の貢献度を計算する方法」を研究して、発明や大学の研究あるいは本の編集やオーケストラの指揮という知的生産活動における、組織のなかの個人を評価する仕組みを提案しています。そして青色ダイオードの場合、七〇億円との答えを出しています(『人の値段 考え方と計算』講談社、二〇〇四年一〇月)。

二二〇億円、七〇億円、六億円、そして二万円のどれが正しい答えだったのでしょうか。会社は得をして中村さんは損をしたのか、あるいはその反対だったのでしょうか、当事者の損得はさておき、日本という国の損得を考えてみましょう。

日本という国は大きな損をしたと思います。一つは、頭脳の流出です。もう一つはもっと大きなじわじわと効いてくる損害です。それは若者の理工ばなれに歯止めをかけて、ものづくり技術を復活させる絶好の機会を失ったという点です。資源のない日本にとって人材は貴重な資源です。とくに知的資源は物的資源のない国が、資源をもつ国と差別化するための貴重な財産です。

(八太昭道『ごみから地球を考える』より)

※IT産業……情報技術産業。

※GDP……国内総生産。一年間に国内で新たに生産された財・サービスの価値の合計。

※リスク……損害を受ける危険度。

※リターン……利益。収益。

※ロス……損失。むだ。

1 ——— 1 『もの』作り』とありますが、この言葉と同じ意味で使われている別の表現を、本文から六字でぬき出して答えなさい。

2

X

Z

 に入る語として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ語の使用は一回だけとします。

ア だから イ ところが ウ では エ つまり

3 ——— 2 「問題はどんなものをつくるかです」とありますが、筆者はどのようなものをつくる必要があると考えていますか。筆者の考えとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 日本が得意分野とする、先行した技術をモデルにして改良して、他国にない新しい製品をつくっていく必要がある。
イ 一人あたりのGDPが日本より低く、人件費の安い国を対象に、他国にない新しい製品をつくっていく必要がある。
ウ 二一世紀の中心であるIT産業や金融産業とともに、若い頭脳で他国にない新しい製品をつくっていく必要がある。
エ ものづくりに必要な人材を集め、日本がもつ高度な技術を使い、他国にない新しい製品をつくっていく必要がある。

平成二十六年 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その三)

4 — 3 「現実」とありますが、「現実」を具体的に説明している部分を、本文から一文で探し、初めの五字をぬき出して答えなさい。

5 — 4 「やむをえない事情」とありますが、本文中で事情を説明している部分の空らん(①)(③)に適する語を、本文からぬき出して答えなさい。また、空らん(②)(④)(⑤)に入る語として、最も適するものを、次の中から選んで書きなさい。ただし、同じ語の使用は一回だけとします。

小さい 大きい 多い 安い 高い

6 — 5 「それはだれがやったのでしょうか」とありますが、次の文は「それ」の内容を説明したものです。次の空らんに適することばを本文からぬき出して文を完成させなさい。

・初めに「ア (三十字以内)」があり、工夫や改良を重ね、「イ (十七字)」こと。

7 — 6 「匹敵」の意味として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 相手として同じくらいであること。 イ 相手よりも力が勝っていること。

ウ 相手に対し力が劣っていること。 エ 相手にする必要があること。

8 — 7 「世論は、会社に対して訴訟を起こした中村さんに批判的でした」とありますが、筆者はこの世論のどのような点を問題だと考えていますか。本文のことばを使って五十字以内で答えなさい。

9 — で囲まれた段落について、筆者はなぜこのような話題を述べているのですか。その理由として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア プロ野球という組織こそが、組織同士の戦いの中で個人の活躍に対価を払うという、評価システムを持っていることを示すため。

イ 日本では、知的生産活動における、組織の中の個人を評価する仕組みづくりが遅れていることを、指摘するため。

ウ 青色ダイオードを発明した中村さんが、会社で訴訟を起こしたことに対し、世論が批判的であったので、反論を行うため。

エ 他の人に置き換えることのできない個人がいることにより、チームを機能させた有名な野球選手の功績をたたえるため。

10 — 線Ⅰ「イチロー」とⅡ「技術者」の共通点はどういう点ですか。解答らんに従い、本文のことばを使って両者を対応させる形で答えなさい。

11 — 8 「日本という国の損得」とありますが、筆者は「日本」の「損」をどのように説明していますか。次の空らんに適することばを本文からぬき出して、説明文を完成させなさい。

・知的資源である(ア) だけでなく、(イ) をかけて、(ウ) 機会を失った。

12 次の一文を入れるのに最も適する場所を探し、本文の A B C D から選んで答えなさい。

「新しいアイデアを育て成功させることを拍手喝采する社会全体の雰囲気が必要です。」

平成二十六年 度 帝塚山 中学校 一次入学試験問題・国語 (その四)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 明日学校に行ったら、みんなはどんな顔をするだろう。びっくりする、それは間違^{まちが}いなく。

でも、肝心^{かんしん}なのは、びっくりしたあとの表情だ。

笑われるかもしれない。それが怖^{こわ}い。

「メガネちゃん」なんてあだ名がついたらどうしよう。

つくかもしれない。いや、もしも立場が逆になって、同級生の子が初めてメガネをかけて登校したのをなっちゃんが見たら、たぶん笑う。おそらく笑う。きっと笑う。間違いなく笑う。絶対に、笑う。その子のメガネが似合^{にあ}っていいまいと、おもしろがって、からかって笑う。

メガネちゃん――。

三年二組に、一人いる。川野さんというおとなしい女の子だ。四角い赤いフレームのメガネをかけている。クラス替^かえて四月に初めて同じクラスになった。女子でメガネをかけているのは川野さんだけだったので、なっちゃんが最初に「メガネちゃん」と呼んだ。男子のように「メガネザル」なんてひどいあだ名はつけなくても、でも² やっぱ²り同じだな、といまは思う。

明日からは、クラスのメガネちゃんは二人になる。

川野さんがメガネちゃん1号で、なっちゃんがメガネちゃん2号。

やだなあ、まいっちゃうなあ、学校に行きたくないなあ、と店内をうろうろと歩きつづけた。今年の夏休みはずっと、そのことばかり考えていた。だから、家族で海に行っても、子ども会のキャンプに参加しても、³ ちっとも楽しくなかった。

夏休みは今日で終わる。

【 X 】は、明日、教室にデビューする。

二学期が始まる前に目を慣^ならしたほうがいいから、とお母さんは数日前にメガネを受け取れるようにしていた。一日でも引き延ばしたくて、「今日は友だちと遊ぶ約束してるから」「今日は宿題の絵をかくから」といろいろな理由をつけて受け取りに行かなかったけど、もう八月三十一日、カウントダウンはゼロ、覚悟^{かくご}を決めるしかなかった。

ア 「なっちゃん、メガネのケース、好きな選^えびなさい」

メガネを買った人には、サービスでケースをつけてくれるのだという。

店員さんが出してきた中から、赤いケースを選んだ。

「ねえ、お母さん、ケースに入れてもって帰^{かえ}っていい？」

「だめよ、メガネかけて家に帰^{かえ}りなさい。ちよっとでも早く目を慣^ならさないといけないんだから」

「ウチに帰^{かえ}ってからかける」

「だーめっ」

「お願いっ、一生のお願いっ」

両手を合わせて拜^をむと、お母さんは困^こった顔で――そして悲しそうに、⁴ ため息をついた。

イ 「よく似合^{にあ}ってるのよ、ほんとに」

「だって……」

ウ 「メガネかけなきゃ遠くが見えないんだから、しょうがないでしょ？」

「でも……」

エ 「なんでそんなにメガネが嫌^{いや}なの？」

自分でもよくわからない。ふと見ると、店員さんも悲しそうな顔をしていた。

それはそうだね、となっちゃんはどうも思^{おも}う。自分のお店で売^うっているものをこんなに嫌^{きら}われると、やっぱり悲しくて、ムカつくよね。

オ 「誰^{だれ}か学校でからかってくる子、いるの？」

首を振^ふった。「誰か」ときかれて、すぐに顔が思^{おも}い浮かぶ子はいない。こういうときに真^まっ先^{まへ}にからかって、笑って、あだ名をつけてしまうのは――【 Y 】だったから。

平成二十六年 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その五)

「だったら平気じゃないの」

「でも……いるかもしれない」

「そんなこと言ってたら、きりがないでしょ」

「だって……」

5 また話は振り出しに戻^{もど}ってしまう。

メガネはとても便利な道具だと思う。メガネをかけて店内を見た瞬間^{しゅんかん}の、世界がきゅっと引き締^しまった感覚も、目が悪くなるまではあたりまえのことだったのに、すぐく、6 よかった。

たまたま三年二組の女子では川野さんしかメガネをかけていないけど、男子は三人いる。街を歩けばメガネのひとはいくらでもいるし、バスに乗って、乗客にメガネのひとが一人もいないと、かえって気味が悪くなるかもしれない。メガネが人気のアイドルもいるし、レンズをつくるときにお母さんが言った「最近の子ども用メガネって、ほんとにおしゃれになったのね」は、きっとほんとうだろう。

川野さんを教室で見たとき、「あの子、メガネしてる」とこっそり指差して笑っていなければ――。

「ねえねえ、川野さんって『メガネちゃん』って感じだよな」とあだ名をつけたりしなければ――。

笑わなければよかった。ヘンなあだ名、つけなければよかった。自分の意地悪のせいでひどい目にあってしまう⁷ 童話のマヌケな登場人物になってしまったみたいだ。

お母さんは気を取り直して、「まだプレゼントあるんだって」と言った。「アンケートに答えたら、記念品もらえるの」

どれも「ほしい!」と思うほどのものではなかったけど、いつまでも文句ばかり言うのも悪いし、と自分に言い聞かせて、うわあっ、とびっくりして、⁸ よろこんだふりをした。

そのときだった。

お店の自動ドアが開いて、店員さんが「あら、いらっしゃーい」と応^{こた}えた。「今日はどうしたの?」――こういうお店にも常連さんはいるのだろうか。

「明日から学校だから」

背中に、声が聞こえた。女の子の声だった。小学生くらいの、学年で言えば三年生ぐらいの、どこかで聞いたことのある……。

あれっ? と振り向くと、川野さんがいた。

川野さんも、あれっ? という顔をしていた。メガネのおかげではっきりと見える。

^a 見える。視力は四月のクラス替えの頃^{ころ}から落ちていたのだろうか。顔をしかめ、目を無理に細めて見ていたから、川野さんのメガネ姿がヘンに見えたのだろうか。いま向き合った川野さんは、メガネがとてもよく似合っていて、かわいらしい。「なっちゃん、メガネつくったの?」と笑ってきた。教室ではおとなしくてクワイ印象しかなかったのに、いまの川野さんは、元気で、明るくて、友だちになれそうな気もした。メガネちゃん1号とメガネちゃん2号だから、というわけではなくて。

メガネをはずした川野さんは、目を ^b させて、「なっちゃんの顔も、あんまり見えない」と苦笑いを浮かべた。

川野さんのメガネは、いま、超音波^{ちゆうおんは}を使った洗浄器^{せんじようき}でクリーニングされている。洗い終わると、鼻当てのパッド^{こうかん}を交換したりネジを締め直したりという調整をもらうのだという。

「明日から二期だから、ほら、ドライブの前にお父さんが車を洗ったり点検したりするのと同じ」

あ、そうか、となっちゃんはずいいた。べつに「メガネはすごいんだ」と言われたわけではないけど、⁹ そういうのって、なんかカッコいいな、と思った。

クリーニングや調整が終わるのを待つ川野さんに付き合って、なっちゃんもお店に残ることにした。お母さんは「いい? だいじょうぶ? ちゃんとメガネをかけて帰ってくるのよ」と何度も念を押^おして、先に帰った。

最初はメガネ姿を川野さんに見られることも嫌だった。とっさにはずそうとして、メガネに手も伸^のびた。

でも、川野さんは「似合うよ、なっちゃん」と言ってくれた。「いいフレーム選んだね」とも言ってくれた。お母さんや店員さんにほめられたときは違って、「ほんと? そうかなあ、自分だとよくわかんないけど……」と急に照れくさくなって、

^c してしまっ、でも、なんとなく、胸が ^d 温^{ぬく}もった。

二人でいても、べつに盛り上がったりはしない。顔がくっきり見えたからといって、【A】川野さんが急に【B】なる

平成二十六年 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その六)

わけではない。

でも、「今度はどんなのにしようかなあ」と、目をしょぼしょぼさせたまま、ほとんど手探りで商品棚のメガネをかける川野さんは、とても楽しそうだった。この子、メガネが好きなんだな、と思う。自分のたいせつなものだから、好きなんだな。

「こういうの、どう？」

川野さんがかけたのは、レンズの部分がまるっこいメガネだった。いつもの四角いメガネより、そっちのほうが似合う。「すごくかわいい」と、なっちゃんは言った。川野さんは「じゃあ、クリスマスプレゼント、これにしておうかな」と笑った。ずいぶん気の早い話だけど、クリスマスプレゼントにかわいいメガネを買ってもらうのっていいな、と思った。ゲームを買ってもらより、ずっといいな。

クリーニングと調整が終わったメガネを受け取ると、川野さんはまたメガネちゃん1号に戻った。

「これで二学期の準備完了」と言って、旅に出かける前のゲームの主人公みたいに、よし、とうなずいた。なっちゃんも「わたしも、準備完了」と笑い返す。メガネちゃん1号と2号、二学期に向かって出発――。

(重松 清『虹色メガネ』より)

1 ――― 1 「明日」とはいつのことですか。日付を答えなさい。

2 ――― 2 「やっぱり同じだな」とありますが、どういう点で同じなのですか。次の空らんに適する言葉を本文から三字でぬき出して答えなさい。

□ をしていたという点。

3 ――― 3 「ちっとも楽しくなかった」とありますが、なぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア メガネをかけなければよく見えないので、海や山の本当の楽しさを十分に味わえなかったから。

イ メガネをかけて登校したら、同級生の子にからかわれたり笑われたりするおそれがあったから。

ウ メガネが似合っていないなかったら、ひどいあだ名をつけられてしまうだろうと、不安だったから。

エ メガネをかけて学校に行ったら、川野さんに仕返しをされるかもしれないと、心配だったから。

4 【×(十字以内)】【・】【Ｙ(五字以内)】に適する語を、それぞれ指定された字数で本文からぬき出して答えなさい。

5 ――― 4 「ため息をついた」とありますが、このときのお母さんの気持ちとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア メガネをかけることに抵抗をしめす娘の気持ち的理解できず、どうしてよいかわからない気持ち。

イ 早く目を慣らす必要があったのに、用事があってメガネを受け取れなかったことを悔やむ気持ち。

ウ これほどこいやがっている娘に、強引にメガネをかけさせようとしている自分自身を責める気持ち。

エ 娘の気に入るメガネを選ぶことができなかったが、時間がないので仕方ないとあきらめる気持ち。

6 ――― 5 「また話は振り出しに戻ってしまう」とありますが、話はどこに戻るといいますか。最も適するものを本文中の部ア～オから選んで答えなさい。

7 ――― 6 「よかった」とありますが、何が「よかった」のですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア メガネ イ 瞬間 ウ 世界 エ 感覚 オ あたりまえのこと

平成二十六年 帝塚山中学校 一次入学試験問題・国語 (その七)

8 — 7 「童話のマヌケな登場人物になってしまったみたいだ」とありますが、このときのなっちゃんの状態を表したことばとして適するものを、次の中から二つ選んで答えなさい。

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| ア 身から出たさび | イ 猿も木から落ちる | ウ 恩を仇で返す |
| エ 疑心暗鬼 | オ 自業自得 | カ 言語道断 |

9 — 8 「よろこんだふりをした」とありますが、なっちゃんがこのような態度を取ったのはなぜですか。次の空らの条件に合うように本文からぬき出して答えなさい。

お母さんと店員さんが **イ 六字** をしていたので、 **ロ 十六字** と思い、氣を使ったから。

10

a

d

 に入る語として、最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。

- | | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| a ア ふわっと | イ じっくりと | ウ くっきりと | エ さらっと |
| b ア くよくよ | イ もじもじ | ウ どきどき | エ しょぼしょぼ |
| c ア くよくよ | イ もじもじ | ウ どきどき | エ しょぼしょぼ |
| d ア ふわっと | イ じっくりと | ウ くっきりと | エ さらっと |

11 **【A】** **【B】** に入る語の組み合わせとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- | | |
|----------|----------|
| ア A かわいい | B カッコよく |
| イ A まじめな | B ふまじめに |
| ウ A 照れ屋の | B 元気に |
| エ A 無口な | B おしゃべりに |

12 — 9 「そういうのって、なんかカッコいいな、と思った」とありますが、なっちゃんがそう思ったのはなぜですか。六十字以内で答えなさい。

三 次の1～10の — 部のカタカナを漢字に、11～15の — 部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 漁師たちは釣った魚をボセンに積みかえ、冷凍して港まで運ぶ。
- 2 市長は四年間のニンキを終え、引退を決意した。
- 3 私の作った交通安全のヒョウゴが、優秀作品として選ばれた。
- 4 水は私たちのからだとミッセツな関係にある。
- 5 博物館に展示されているのは、発掘された壁画をモシヤしたものだ。
- 6 休日は、泳いだりニッコウヨクをしたりして、ゆっくり過ごそう。
- 7 三月三日の桃のセックには雛人形をかざろう。
- 8 足のケガがゼンカイしたので、思い切り走ることができた。
- 9 秋の夜長に、兄とマンテンの星をながめた。
- 10 織田信長は、全国統一というヤボウを持っていた。
- 11 東京でオリンピックが開かれるという記事が紙面をにぎわした。
- 12 黒地にかすり模様の羽織を、父からゆずりうける。
- 13 あの店員は、働き始めて三日の新米らしい。
- 14 現在の日本では、綿の栽培は行われなくなった。
- 15 週末の家族旅行について、姉と二人で計画を練る。

得 点

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	

4

- 5
- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

[illegible][illegible]

7

8

[illegible]

9

10

Ⅱ 技術者	Ⅰ イチロー
-------	--------

あるひとつの着想を生んだ点。

↓

実用化に成功させた点。

↓

↓
ハードなトレーニングと厳しい自己管理で技を磨いた点。

11
ア

イ

ウ

12

二
1
月
日

2

3

[illegible]

- 5
- 6
- 7
- 8

9
イ

□

10	a	
	b	
	c	
	d	
11		

[illegible]

- 1 
- 2 
- 3 
- 4 
- 5 

6. 
7. 
8. 
9. 
10. 

- 11
- 12
- 13
- 14
- 15